

私のミルフォードトランピング

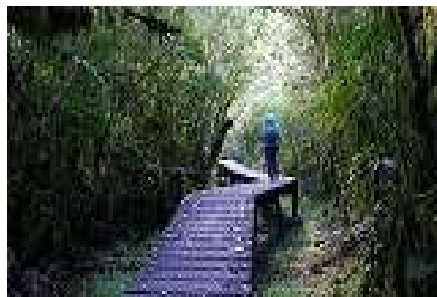
ミルフォードトラック完歩

クインティンロッジまでは 6km、高度差 900mの厳しい急下降、歩き始めると冷風が強まり手の指先が痺れて凍傷になるかと思ったが、20 分程下って風も収まりホッとする。

やがて雪は雨に変わりモレイン・クリークの 7 段滝に沿って設けられた木製の階段歩道を下る。眼前を豊富な水量で落下するマーガレット滝は壮観、濡れるのも構わずシャッターを切った。



マーガレット滝



続く木道



魅惑の森

道は木道を外れると羊歯や苔が鬱蒼と広がるエンチャンテッド・フォレスト（魔法の森 or 魅惑の森）に入る、ターザン映画の背景そのもので年間 9000mm に達する雨の恵みに育てられているレイン・フォレスト（降雨林）でもある。

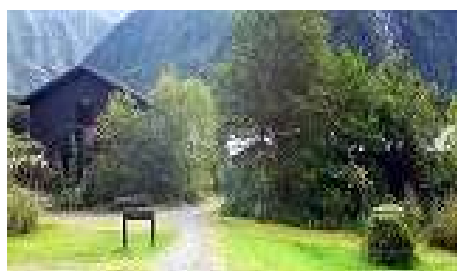
このルート最大の魅力というか、此の為にミルフォードトラックが開発されたという話もあるサザerland・フォールズを見に行くにはクインティンロッジを 4:30 p mには出発しなければならないと聞いていたので雪でロスした時間を取り戻すべく、メンバーで一番若い高橋みっちちゃんと急坂を飛ばしに飛ばしたら何と予定より 30 分も早く到着、部屋にリュックを置きカメラだけを持って名物滝へ向かう。



レインフォレスト

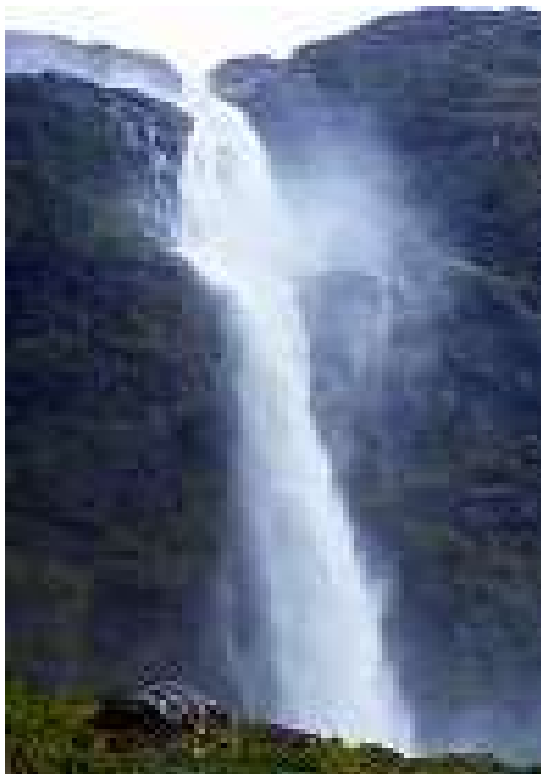


見事なファントリー



クインティンロッジ

雨が依然として降り続く中、高度差 100m、2kmの登りは結構つらい、池になったり川になったりしている道を歩くこと 30 分、前方からジェット機のような轟音が聞こえてきた。そして樹間から見たのは落差 580m世界第 5 位のサザerland滝 Sutherland Falls だ、取り敢えずシャッターを切って更に前進する。ところがほぼ滝の全貌が間近に見える地点に来てみると爆風がしぶきを伴って空に舞い、とても写真など撮れたものではない。



サザーランド・フォールズ 580mNo.5



これ以上は飛沫で撮影不能

通常であれば左手から滝壺の裏に入ることも出来るらしいが、今日は水量が多すぎて危険ということでこれは諦めたが、クイル湖 Lake Quill から直に落下するその迫力は大したもの、この滝の発見がミルフォードトラック開発の原動力になったという話は十分領けた。 雪、寒さ、雨、急坂と続いたシビヤな行動に加えての 1 時間は楽なものではなかったが、どんな疲れも吹き飛ばして感動を呼ぶ立派な滝だった。

Quintin Lodge (標高 250m) 到着 5:25pm、十分夕食の時間に間に合った。



ヒービー



白い花が多い

フォックスグローブ



オールブラックスのハカ

夕食後、最終日になる明日のコースのスライド説明後、ガイドのマリオ Mario がニュージーランドの有名ラグビーチーム“*All Blacks*”の war cry ハカ Haka をやってくれた、元来はマオリ族が戦いの前に自らを鼓舞し相手を威嚇するものだったが、現在は敬意と歓迎を示す民族舞踊とされている。 最初の掛け声「カマテ、カマテ」は明日もう一日「頑張って、頑張って」に聞こえた。 其のあと高橋夫人からストレッチの指導があって 9:30pm 消灯、就寝。

12月15日(日) 5:50am 起床、洗面後乾燥室の干しものを取り込み最後のランチ作り、朝食を済ませて 7:45am 出発、サンドフライポイントへは大きなアップダウンのない比較的平坦な道だが距離が 22 km と長いし、船は 3:15pm と 4:00pm しか無いのであまりぐずぐずは出来ない。

先ずは 3.2km先のダンプリングハットを目指す、一寸したデコボコ道で木のなだれ跡ツリーアバランチ Tree Avalanche を通過して行く、ダンプリングハットの先は勾配も緩やかになりアーサー川の右岸に沿って1時間半 5.6 kmで道の真ん中に建つボートシェッドハット Boatshed Hut (標高 60m) に着く。今は吊り橋が架かっているが、かつて船で川を渡っていた時の船の収容所だった場所だ、チョコレートを貰って飲みながら外を見たらなんと太陽が顔を出し晴れ間がパーッと広がってきた、ガイドのロスが Sun shine!!と云って飛び上がって喜んだがそれも僅か 5 分間、此処からマッケイ・フォールズとベルロック迄は 1.6km、吊り橋でアーサー川の左岸に出て 30 分と掛からない。



アーサー川



羊歯の森



ボートシェッドハット

此の滝の名前は勿論発見者の名前なのだが、1880 年にアーサー谷を探検したドナルド・サザーランドと友人のジョン・マッケイが大変美しい滝を発見し、この滝の命名権をコインのトスで決めた。勝ったのはマッケイでこの滝はマッケイ・フォールズとなったが、今度は更に上流でとんでもなくでかい滝に出くわしてしまった。次の命名権はトスに負けたサザーランドにあったため世界的な滝「サザーランド・フォールズ」の名が誕生した、さぞかしジョン・マッケイは悔しい思いをしたことだろう。

ベルロックはマッケイ滝の流れの浸食によって出来た甕穴の巨岩が何かの拍子に逆さまになって釣鐘状の洞になっているのでベルなのだろうが、中は充分立って入れる大きさがあった。



マッケイ・フォールズ



ベルロックの天井



ベルロックに入る

滝を過ぎると急峻な崖の下道になるが、右手はブッシュが広がりその中にブナの巨木が全体に苔を一杯つけてポツンと立っていた、全く葉がないから枯れているのかもしれない。27 マイルの杭 Peg を過ぎ名残の雨林レインフォレストを通って左に回ると前景にアイダ湖 Lake Ada を控えてアーサー溪谷のファンタスティックビューが広がっていた。前方に雪を被った特異な山容の山が見える、頂上部は割れていてその間は氷河を思わせる、こんな山に名前が無いわけではないと調べ

たら“Devils Armchair” 1627m「悪魔の肘掛け椅子」とはさすがに上手い命名と感心した。道路わきに茶色の身体に赤い嘴、20cm 位の鳥、ウエカ Weka だ、天敵のいない国の鳥らしく落ち着いていて逃げる気配はない、お陰でゆっくり写真も撮れた。



“悪魔の肘掛け椅子”1627m



ブナの枯れ木



ウエカ

アイダ湖はクリントンバレーのデッドレイク同様大規模な土砂崩れによって出来た堰き止め湖だが其の規模は遥かに大きい。道はロッキイカッティングと云う山側の岩を削って作った道に登る、比較的なだらかな今日のコースの中では最も厳しい所だ、この区間は 1898 年まではボートで通過するしかなかったという。

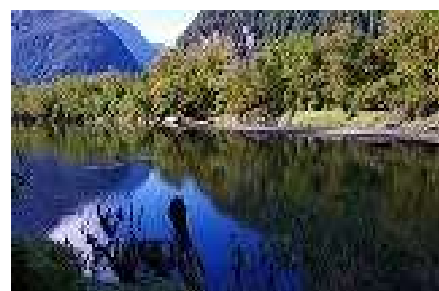
30 マイルペグを過ぎるとジャイアント・ゲート・フォールズの轟音が聞こえてきた。シェルター到着時間はもう 1:00pm、此处では飲み物のサーブはないので小屋には入らず、林の中に腰を下ろして昼食をとるが此处で初めてサンドフライの洗礼を受けた。サンドフライは 5mm 位のブヨの仲間だが雄は樹液を吸い、雌が動物の血を吸って増殖するのだという。今まで全くお目にかからなかったのは全てこの続いた雨のお陰だったらしい。それでもこの小さな虫にも好き嫌いがあるようで、大騒ぎしている人がいる一方で、私などは刺されはしたものの大した被害にはならず昼食を済ませることが出来た。



ロッキイカッティング



広がる川幅



アイダ湖

滝は此处からは見えないがすぐ前の流れを見ると、川底の石が一つ一つ見て取れるくらい澄み切っていて美しい、橋を渡って見たジャイアント・ゲート・フォールズはミルフォードトラック中最も美しいといわれる端正な姿だった。



澄み切って美しい流れ



ジャイアント・ゲート・フォールズ

此処から終着点のサンドフライポイント迄 5.6km、ブナ、羊歯、苔を纏った魅惑の森は過去のものとなり、アイダ湖に沿って広く伸びやかな道が続く、そして 3:00pm 遂に SANDFLY POINT Milford Track 33.5Miles の大看板を通過した。



サンドフライポイント 33.5 マイル



サンドフライ模型



サンドフライポイントワーフ

此処は正しくその名の通り、サンドフライが一杯でシェルターの扉は二重の網戸でガードされていたが、それでも此の小さな悪魔は何処からでも潜り込んでくるので始末が悪い、マオリの伝説ではあまりにこの土地が素晴らしいので人間が長居しないように神が作ったというから早々に退散せねばなるまい、何処へでも例に翌日レッドボートクルーズの際、岩神さんのカメラの中からサンドフライが出てくる事件もあった。 チョコレートを飲みながらシェルターで休憩、船は最初の船だが少し遅れて 3:45pm 発船、ミルフォードサウンド (sound は入江の意) へは 15 分位、未だ小雨は降り続けていたがキャビンには入らず周りの景色を楽しんだ。 最後の泊りのマイターピークロッジはガイドドゥオーク専用ロッジで海辺のこの光景を見ながら泊まれるところは此処以外にない。



マイターピークロッジ



完歩証

此のロッジでの最大のイベントは完歩証 Certificate of Achievement の授与式、氏名、日付、ガイドのサインがある立派な証書で No.46 グループの全員が一人ずつガイドから受け取ったが、皆の表情は等しく誇らしく晴れやかに輝いていた。

これはテアナウのグレードワーフからマッキノンパスを挟んでクリントンバレーとアーサーバレーの2つのU字谷、33.5 マイル、54kmを歩き通した証しであり、振り返れば初日から最後まで降り続いた雨、特に3日目の雪のマッキノンパス越えは我等にシビヤな条件を突き付けたが、その見返りに豊富な水量で信じられない高みから降り落ちる無数の滝や雪の中に咲く可憐なマウントクックリリーやマウンテンデイジー、ターザン映画そのもののレインフォレスト等正に得難いものの数々を目の前に示してくれた、それらの忘れえぬ思い出が一杯詰まったご褒美の完歩賞だった。太陽を見たのは4日間で5分間だけ、の話をすると「残念でしたね、お天気が良かったらどんなにか素晴らしかったでしょうに」と慰めの言葉があるかもしれない、然し私はミルフォードトラックはレインフォレスト（多雨林）の道であり、雨あってこそ、その良さが存分に発揮される道だと思っている。さらに言えば雪のマッキノンパス越えという滅多に望んでも出来ない経験が出来たことはよくぞあの時 Go! の決断してくれたと我等のガイドたちに感謝したいし、これこそが「私のミルフォードトランピング」だったと胸を張りたい。美味かったラム肉の夕食の後、売店でミルフォードの写真やカレンダーを買って、シャワーを浴びてから就寝、今夜は安らかに眠れるだろう。（続く）

【2020 年 4 月 28 日 山本 浩 リメイク版】